

運送業界の健康支援を生きがいに

83 居眠り運転と大事故

楽しいはずのゴールデンウィークが、居眠り運転による大惨事で急変したのは、4月29日、関越道での出来事でした。大型バスがガードレールに突き刺さるように二分裂されている様相から、原因は「居眠りしかない」と直感しましたが、「高速道路でのノーブレイキ」に多くの人が居眠り運転の恐ろしさに震撼しました。

●事故原因調査について
最近、全国各地で悲惨な大事故が続発しています。その事故原因のほとんどがブレーキの痕のない居眠り運転によるもので、無差別に多くの人命を奪っています。居眠り運転の原因は何でしょうか。おそらく本件も、運行記録や勤務日報、就業規則など管理票の調査により、その原因が明らかになり、会社側の管理体制や、さらにはその背景

にある安すぎるツーリスト価格などが社会問題として浮上り、追及されていくと予想されます。確かに、その部分を否定することはできませんが、居眠り運転の原因は、はたしてそれだけでしょうか。会社のコンプライアンスや管理体制がたまたまパーフェクトであったとしても、ヒューマンエラーである「居眠り運転」は起きるので、「居眠り運転」は起きるのですから、「居眠り運転」は過重労働」という原因のみに終始して、複合的な要因を見逃してほしくないと思います。

●ドライバーの身体チェックを
私は職業ドライバーが自動車運転過失致死傷として罪を問われる事故原因調査の中に、最も大切な「ドライバーの身体」が触れられていないのではないかと、いうことを懸念しています。例えば、定期

健康診断の事後措置はなされていたのか、睡眠時無呼吸症候群(SAS)の検査は済んでいるのか、眠くなる薬は飲んでいなかったのかなど、職業ドライバーとして常識的なことは無論、居眠り運転に至る疲れの原因は親の介護かもしれないし、子供の教育問題、お金の悩みかもしれないからです。心身の不調が運転業務に過大な影響を及ぼすことは、多くの人がすでに周知の知見です。

●必ずSAS検査を
今回の居眠り運転事故を機に、ぜひ関係者の方には、ドライバーの心身にまで踏み込んだ複合的なチェックと、次につながる対策の構築をお願いしたいと思います。

「列車には自動制御装置があるけれど、もしトラックやバスのドライバーが居眠りをしたら…」との思いから、私は平成15年の新幹線運転士のSASによる居眠り運転をきっかけに、SAS対策事業をスタートしました。懸念していたバスの大惨事が発生し、SAS検査の法的整備などを含めた再徹底の必要性を痛感しています。

24年度も全ト協、都道府県トラック協会ではSAS検査を交付金対象としています。ぜひ一刻も早い検査を。(詳細は全ト協・OCHISのHPをご覧ください)

《全日本トラック協会・大阪府トラック協会 SAS検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)
理事 作本 貞子
「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
TEL : 06-6965-3666
FAX : 06-6965-5261
E-mail sakumoto@ochis-net.com
HP http://sas.ochis-net.jp/



(次回は6月11日号に掲載)